

## 令和2年度 常葉大学附属常葉中学校高等学校 学校評価

〔評価基準は A:十分達成できた(80%以上) , B:ある程度達成できた(60%程度) , C:あまり達成できなかった(40%程度) , D:達成できなかった(20%以下)〕

区分	No.	評価項目	評価内容	評価	今年度の取り組み事例と次年度へ向けて	学校関係者評価委員の質問・意見
教育活動全般	1	分掌活動	分掌組織の中での役割分担を責任を持って果たし、円滑な分掌運営に協力できたか	A	<p><b>全体として</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症(以下:コロナ)予防については、校長のリーダーシップの下、各分掌で対応策がしっかり取られた。職員も組織的に動くことができ、コロナ対策を含め、大きな問題がなく学校運営ができた。</li> </ul> <p><b>生徒課</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・休校中に、全ての女子トイレの扉の内側と外側にコロナ対策の注意を作成し、貼り付けを行った。各フロアとクラスの掲示も作成から工夫して行った。クラス専用の消毒液なども準備し、対策を徹底させた。また、コロナ対策動画を作成し、生徒・職員に周知することができた。</li> <li>・コロナの関係で、生徒会活動もかなり縮小してしまったが、中高校生が共に挨拶運動や静岡ホームへの募金活動、中学独自でエコキャップ運動等に取り組んだ。今後は「水落one キャンパス構想」という考えもあるので、大学との連携を含めた活動を積極的に進めていけたらよいと思う(中高・大の文化祭共同開催など)。</li> </ul> <p><b>教務課</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ対応でスケジュールが厳しくなることもあったが、柔軟に対応して、仕事を進めることができた。奨学金関係や年間時間割、試験監督表、授業振替の作成などの業務で、組織的な協力体制の下、滞りなく進めることができていた。</li> </ul> <p><b>進路課</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・概ね業務については、滞りなく進めることができたが課題も多く、次年度の懸案事項として取り組みたい。一つは模試などの行事で、担当者の負担が大きいため進路課全員が関わって進めていく必要がある。2つ目として、特進コースの位置づけや目標を明確にし、魅力ある特進コースにすることが必要と考える。その他にも、看護系列の底上げ、NIEの更なる実践・研究などを考えていきたい。</li> </ul>	<p>質問者1-1: コロナ対策について、小学校は法人内に1つしかないため、常葉中高にも問い合わせをさせていただきましたが、3中高で相談して決めたことはありませんか。学校: 特に3中高で相談し決めたことはありませんが、月1回の高校運営懇談会で各校がどのような対策をしているか報告する場がありました。そこで情報を共有することができました。また、実際、感染者が出なかったため、特に学校間で相談して決めるということはありませんでした。</p> <p>質問者1-2: iPadの導入について、令和3年度から中学生全員がiPadを持ちますか。小学校はGIGAスクール構想の取り組みとして導入しましたが、常葉中学はどうですか。学校: 本校もGIGAスクール補助金(1/2補助)を利用し、中学生全員分のiPadを購入することになっています。ただし、iPadの品切れにより、まだ全生徒分は揃っていません。</p> <p>質問者1-3: 小学校はなんとか揃いました。学校: 本校も令和3年4月末までには揃う予定です。</p> <p>質問者1-4: 中学校の方で、小学校からのキャリアパスポートの提出を考えていますか。学校: 小中高でキャリア教育をつないでいく取り組みを進めているところだと思いますが、本校としても対応していかなければならないと思います。ただ、具体的に何をどのようにご提出いただくかは、まだはっきりしていない状況です。</p> <p>質問者1-5: 中学校からどのようなものを求められるかお伺いしたいと思いました。小学校で考えているのは、1年間でどんなことを実施したかなどを1枚にまとめ、1年生から6年生まで計6枚の紙にまとめることにしています。また、作文や育ちの中での証明を揃えて中学校に提出するように言われています。現在、静岡市または県で形式を整えているところのようで、本校としても作っているのですが、急に言われたことだったので、どのようにしたらよいか考えているところです。</p> <p>学校: 今後、キャリアパスポートを活用していくことになると思いますが、来年度入学される方への対応についてなど、静岡市または県から、はっきりとしたものが示されたところで実施していきたいと思っています。</p>
	2	学年運営	学年組織の中での役割分担を責任を持って果たし、円滑な学年運営に協力できたか	A	<p><b>中等部</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中等部の先生は一人一人が意欲的、協力的であり、本当に誠実な「プロの教育者」集団であるため、すべてにおいて学年を越えて協力しながら前向きに活動できた。今年度初めて取り組んだ中2「シツクリプロジェクト(キャリア教育)」の活動で学校生活に自信を持てる生徒が多くなった。また、その成果として1チームが全国大会へ出場することができた。</li> </ul> <p><b>1年部</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年会議で学年がより良くなるためにお互い意見を出し合って協力している。個人プレーではなく全体で動くことができた。担任が一人で問題や業務を抱え込まないように情報共有をしっかりとし、学年全員でフォローした。特に生活指導面において、そのときの現状に応じて要チェックポイントを考え、事前に担当者で確認しておくことで、指導が徹底できた。</li> </ul> <p><b>2年部</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行事が変更になることが多く、準備が思うように進まないものもあったが、コロナ禍での諸活動の計画立案を柔軟に対応することができた。学年主任を中心にコロナ対策を考え相談しながら、また、学年部の目標や指導方針などを意識し、早めに行動できたことはとても良かったと思う。</li> </ul> <p><b>3年部</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒のために一つ一つのことを丁寧かつ計画的に行っていたように感じる。学年の先生方が会議などで積極的に発言し、コロナ対応を踏まえた教育活動ができたことは大変良かった。進路面では、学年部の先生方はもとより、他学年の先生方にも面接練習を助けていただき感謝している。学年を越えた教育が今後も大切であると思った。</li> </ul>	<p>質問者2-1: コロナの関係で部活ができなかったというお話がありました。まったくできなかったのでしょうか。学校: 一部の部活においては、大会は中止になりましたが、競技会のような形で実施したり、今までとは違った形の開催となったと思います。</p> <p>質問者2-2: 部活の練習はどうでしたか。学校: 校長が許可した部活については、感染対策を徹底したうえで時間を制限して行うなどの対応をしました。緊急事態宣言を受けて、休校になった場合は行えませんでした。緊急事態宣言解除後、県の警戒レベルにより、校長からその都度、校内での練習を何時間認める、外部との交流は中止するなどの指示を受けて行いました。</p> <p>質問者2-3: 常葉中高には放送部があると思いますので、こういったことを記録し、残しておけば、何かの機会に活用できる、また外への発信にもつながると思います。学校: 確かにそうです。運動部の他に文化部も活動を行っておりましてので、ご意見を参考に検討したいと思えます。</p>
	3	コース・系列運営	コース・系列の組織の中での役割分担を責任を持って果たし、円滑な運営に協力できたか	A	<p><b>看護系列</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれ共通理解と情報共有をして助け合い、確認しながら円滑に仕事できた。また、看護系列では情報の共有や連携講座の連絡等、落ち度なくできた。</li> </ul> <p><b>医療・健康系列</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高大連携授業は、コロナ禍で大学の先生方が出勤されていないこともあり、授業の事前打合せを早めに行った。大学の先生方からは、生徒が志望理由書作成の際に専門的な内容の指導を受けることができたり、また、理学療法関係の施設見学・ボランティアの情報なども大変参考になった。高大連携の良さが発揮されていたと思う。</li> </ul> <p><b>保育系列</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・12月に一日の幼稚園実習を計画したがコロナ禍で中止になってしまった。しかし、2月実習ができることになりとても良かった。また、静岡市に依頼し保育に関する講座を実施したり、読み聞かせ、オペレッタなどクラスや連携講座で発表会を行った。今後は充実した連携講座になるように生徒のニーズに合った内容にすべく、系列の改革を進めていきたい。</li> </ul> <p><b>総合進学系列</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で系列として行われる活動(回数)が少なくなってしまう大変残念であった。連携講座では1年生「ライフデザイン講座」、2年生「社会科学系講座」などを実施した。担当講師との連絡、企画運営は円滑にできた。</li> </ul> <p><b>特進コース</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの関係もあるが、指導方針や行事などがまだ明確でないところもあったり、実施できていない行事もある。そんな中でも、「プレゼンテーション交流会」は特進の行事という位置づけで実施した。今後は、特進としての方針や内容を明確にして、生徒にとって魅力ある特進コースを考えたい。</li> </ul>	<p>質問者2-1: コロナの関係で部活ができなかったというお話がありました。まったくできなかったのでしょうか。学校: 一部の部活においては、大会は中止になりましたが、競技会のような形で実施したり、今までとは違った形の開催となったと思います。</p> <p>質問者2-2: 部活の練習はどうでしたか。学校: 校長が許可した部活については、感染対策を徹底したうえで時間を制限して行うなどの対応をしました。緊急事態宣言を受けて、休校になった場合は行えませんでした。緊急事態宣言解除後、県の警戒レベルにより、校長からその都度、校内での練習を何時間認める、外部との交流は中止するなどの指示を受けて行いました。</p> <p>質問者2-3: 常葉中高には放送部があると思いますので、こういったことを記録し、残しておけば、何かの機会に活用できる、また外への発信にもつながると思います。学校: 確かにそうです。運動部の他に文化部も活動を行っておりましてので、ご意見を参考に検討したいと思えます。</p>
	4	教科活動	教科の中での役割分担を責任を持って果たし、円滑な教科の運営に協力できたか	A	<p><b>地歴公民科</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の専門的知識を高めるため各種研修会に積極的に参加した。例、NIE研究会、地歴教育研究会(静岡大学主催)。教科の実績としては、税の作文、新聞感想文コンクール(4年連続学校賞)で本年度も受賞者を出すことができた。</li> </ul> <p><b>体育科</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育祭実施について、コロナ対策が必要であったため準備は早めに行い、教科会議で決めた詳細内容をすべて実施できたのは大変良かった。外部体育館を使用するため、入館時の検温、手指消毒、道具使用前後の消毒、換気、応援方法などを緻密に行った。その結果、感染者もおらず、事故なく無事に終了できた。</li> </ul> <p><b>音楽科</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・飛沫感染予防のため、満身に音楽の授業ができない中、試行錯誤しながら今できるベストな方法で授業を実施することができた。特に中学合唱コンクールは、ビデオ撮影による実施であったが、生徒が一生懸命頑張ってくれた。</li> </ul> <p><b>理科</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・休校期間中、Classiの使用や、Google meetを用いた会議や研修を試行してみるなど、教科内でオンラインを利用し、オンライン授業の実施に備えた。コロナ対策として、理科室出入口での消毒や使用器具の消毒、また、授業でのグループ活動を中止して器具や薬品は授業前配布したりと、教科担当間の連携を密にして、技術・情報の共有にも努めた。</li> </ul>	<p>質問者2-1: コロナの関係で部活ができなかったというお話がありました。まったくできなかったのでしょうか。学校: 一部の部活においては、大会は中止になりましたが、競技会のような形で実施したり、今までとは違った形の開催となったと思います。</p> <p>質問者2-2: 部活の練習はどうでしたか。学校: 校長が許可した部活については、感染対策を徹底したうえで時間を制限して行うなどの対応をしました。緊急事態宣言を受けて、休校になった場合は行えませんでした。緊急事態宣言解除後、県の警戒レベルにより、校長からその都度、校内での練習を何時間認める、外部との交流は中止するなどの指示を受けて行いました。</p> <p>質問者2-3: 常葉中高には放送部があると思いますので、こういったことを記録し、残しておけば、何かの機会に活用できる、また外への発信にもつながると思います。学校: 確かにそうです。運動部の他に文化部も活動を行っておりましてので、ご意見を参考に検討したいと思えます。</p>



## 令和2年度 常葉大学附属常葉中学校高等学校 学校評価

〔評価基準は A:十分達成できた(80%以上) , B:ある程度達成できた(60%程度) , C:あまり達成できなかった(40%程度) , D:達成できなかった(20%以下)〕

区分	No.	評価項目	評価内容	評価	今年度の取り組み事例と次年度へ向けて	学校関係者評価委員の質問・意見
学習指導・教務関係	1	教科指導	生徒の学力の定着、向上や学習意欲を引き出し、生徒の満足度の高い授業実践ができたか	A	<b>授業の組み立て</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初めに必ず授業のポイントを明示し、身に付けてほしいことや理解してほしいことを伝えた。</li> <li>・実技において制作開始時に「課題のねらい」「採点ポイント」を明確に示し、モチベーションを維持できるよう工夫した。</li> <li>・プリントやスライドなどを活用しつつ、視覚的に学べるよう工夫した。</li> <li>・英語を読んで理解し、自分の考えを表現させることに力を入れた。4技能の向上を意識させ、目標や計画を立てさせて力を伸ばさせる指導をした。</li> <li>・課題テストを行い、基礎的な内容の復習を行ってから次に進むなど繰り返すことを心掛け、その授業で必ず身に付けてほしいことを何度も強調した。</li> <li>・グループワークの中で各々がどのような学習をしているのか考える時間を作り、勉強方法について学ぶ時間を作ってみた。</li> <li>・生徒間でワークを解かせたり、入試問題を分析させたりした。その結果、他の考え方を学ばせることができた。</li> </ul> <b>定着に向けて</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の課題の提出や再試験など徹底して行っている。</li> <li>・反復練習や丁寧な板書・説明を心掛けた。成績不振者に対して、苦手意識を克服できるよう、基礎課題を提供し、全問正解するまで、指導を続けた。</li> <li>・小テストやノート回収を頻繁に行い、必ずコメントを書いて返却した。机間巡視を増やし、個々の対応を増やした。</li> <li>・個別レッスンを実施し、個別の課題を与え指導した。小テストや調べ学習を増やした。</li> </ul> <b>ICT活用</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業におけるiPadの利用を進めた。iPadを利用して自分の動きをチェックしたり、インターネットを利用して練習の仕方を調べ実践させた。</li> <li>・ワークシートを作り、振り返る機会を多くつくった。今の学習が将来どう生きるかを分野ごと理解させ、自分の事として学べるように授業に取り組ませた。</li> <li>・オンライン授業の可能性を考えて、スライド授業を実施した。コメントペーパーを導入し、生徒の理解度の確認に努めた。</li> <li>・インターネット上の動画資料なども活用し、イメージしやすいよう工夫した。スタディアアプリなどの動画配信も利用した。</li> <li>・NIEの活動を通じて、社会(世の中)に目を向けさせ、生徒の思考力、表現力、知的好奇心を高める工夫をした。</li> </ul>	質問者3-1:中学校の入学者はどの位ですか。学校:44名です。去年は22名ですので倍になっています。なぜ増えたのかとよく聞かれるのですが、特に大きく変えた部分はなかったように思います。例年と違う点といえば、説明会の会場を大学にしたこと、新しい取り組みとしてのシジクリプロジェクト(企業とコラボし生徒たちで新しい提案をしていくプロジェクト)を大々的に宣伝したことがありました。また、今年度は説明会の参加者が30名～40名となり、例年よりも増えていたことがありました。一部の保護者からの話になりますが、このコロナ禍で学力の定着が心配で、常葉なら中高大とつながっているのが安心だといったご意見をいただきました。質問者3-2:ここ10年くらい同じ質問をさせていただいていますが、どの校長も募集が大変だと言っていたので、今後どのようにしていくのかと思ってきました。長期ビジョンの中に、生徒・保護者には「信頼」と書いてあり、ここが一番難しいところですが、何か学校の魅力をつくり、その魅力を発信して、それを実行することにより信頼を得られるものだと思います。常葉大学のことをどうこういうよりはありますが、そこを突き抜けて、上に行く人たちをつくっていくか、と、大多数から指示される学校とはならないと思います。言うのは簡単ですが、そういう意識を持ちながら毎年の募集に困らない学校にしたいと思っています。学校:本校は女子校ということがあり、まず対象が半分に絞られてしまうことがあります。まず入口のところでそういったことがあります。もちろん女子校の良さもあります。また、特色をつくらうとすると、余計に間口が狭まっていくといったこともあり、特色を強化するのか、それとも入口の段階ではもう少し幅を広げて、入学したところで絞っていったほうが良いかなど難しいところがあります。他校と同じでは魅力につながらないということもあります。質問者3-3:そういった意味で中学校はもう少しチャレンジして良いのではないですか。学校:実はチャレンジをしようと思ひ、いろいろ考え提案をしていますが、附属3中学とバランスをとるなどの難しいところがあります。また、附属高校総合能力入試について、将来的には大きなPRになると思います。1回の入試で決めるのではなく、3年間の積み重ねで決めていくため、その点が非常に大きな魅力となると思います。この入試は、中学校の説明会でも保護者の反応が良いため、大々的にアピールしていきたいと思っています。将来的に大学までつながる学校として広く周知していきたいと思っています。質問者1-6:小学校でも法人から配られた附属高校総合能力入試のパンフレットを見せていただきましたが、学部を問わなければ大学に入れるというのは魅力があると思います。今回、橋小から5名の児童が常葉中学に行くことも、パンフレットが良かったのではないかと思います。学校:それも増えた要因のひとつだと思います。最近、橋小からの児童は1～3名位、0名という年度もありました。今回5名も来ていただけたのは非常にありがたいことです。また、今回、長田西小から5名の児童が入学していただきます。
	2	授業規律	私語や居眠り等を放置せず、落ち着いた雰囲気を作って授業が実施できたか	A	落ち着いた雰囲気を作るために <b>環境作り</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私語や居眠りを許さない雰囲気作り、生徒を活動させることで寝させないような指導をしている。生徒の状況に合わせて落ち着いた雰囲気を作り授業を行うことができた。急かせずメリハリをつけさせ、落ち着いて学べる雰囲気づくりをした。休み時間との切り替えができる生徒が多いこともあり集中した環境づくりができた。私語や居眠り等を放置せず、その都度注意した。</li> <li>・授業の準備をしっかりとさせ、身の回りを整えさせるなど授業に入る前に環境作りを徹底することを心掛けた。授業に向かう姿勢をきちんとさせた。集中できない生徒には声をかけた。注意すべきときに注意をした。机間巡視を多く行い、声掛けを積極的に行った。</li> </ul> <b>授業内容・授業方法の工夫</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークで意見交換・発表をして生徒同士の活動を増やすことを心掛けた。コロナ対策をしつつ、ペアやグループで考えたり、話しあったり、音読などで声を出したりする時間をできる限り作った。授業内容を深める会話を取り上げ質問しやすい状況にした。</li> <li>・授業の中で興味を持てる話を入れながら取り組んだ。ICT機器やPC室、図書室を利用しながら生徒が意欲的に取り組めるような授業づくりを意識した。</li> <li>・緊張感のある授業の展開に努めた。授業進度・テンポの見直し、教材の工夫をした。主体的に活動させ机間巡視する時間を作った。</li> <li>・自分以外の作品を見て意見交換する時間帯と、制作に集中する時間とを区別し、めりはりのある授業を目指した。</li> <li>・活動や自主的に取り組む時間、小テストなどを取り入れながら進めた。</li> </ul>	質問者3-3:そういった意味で中学校はもう少しチャレンジして良いのではないですか。学校:実はチャレンジをしようと思ひ、いろいろ考え提案をしていますが、附属3中学とバランスをとるなどの難しいところがあります。また、附属高校総合能力入試について、将来的には大きなPRになると思います。1回の入試で決めるのではなく、3年間の積み重ねで決めていくため、その点が非常に大きな魅力となると思います。この入試は、中学校の説明会でも保護者の反応が良いため、大々的にアピールしていきたいと思っています。将来的に大学までつながる学校として広く周知していきたいと思っています。質問者1-6:小学校でも法人から配られた附属高校総合能力入試のパンフレットを見せていただきましたが、学部を問わなければ大学に入れるというのは魅力があると思います。今回、橋小から5名の児童が常葉中学に行くことも、パンフレットが良かったのではないかと思います。学校:それも増えた要因のひとつだと思います。最近、橋小からの児童は1～3名位、0名という年度もありました。今回5名も来ていただけたのは非常にありがたいことです。また、今回、長田西小から5名の児童が入学していただきます。
	3	欠席・遅刻抑止	遅刻・欠席が多い生徒の状況把握や改善への働きかけができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスでは朝5分前着席・朝読書を心がけさせた。</li> <li><b>声掛け</b></li> <li>・遅刻が多い生徒には自分で意識させるように努めました。不注意の遅刻が重なる生徒には注意を促し、生徒の生活習慣の改善に努めた。</li> <li>・なるべく早めに教室に行き、登校時間がギリギリの生徒へこまめに声掛けをした。</li> <li>・生徒の様子に目を配り、いつもと様子が違うときには声かけをした。(教科担当)遅刻、欠席の多い生徒には授業の中で声をかけるように心掛けた。</li> <li>・遅刻欠席の多い生徒に対しては清掃時や放課後にもコミュニケーションをとるようにした。</li> </ul> <b>連絡の徹底</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻、欠席が多い者は家庭や学年への報告を徹底し、生徒本人との会話を増やし状況把握に努めた。</li> <li>・保護者と密に連絡を取り、早期対策に心掛けた。定期的に電話連絡や家庭訪問をして家庭の協力を得て現状把握をしている。</li> <li>・体調不良など状況の把握に努め、気になる場合は早めに保護者との連絡を行った。</li> <li>・特に具合の悪そうな生徒について気が付いたところで担任・学年への連絡を心掛けた。</li> </ul> <b>改善に向け</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援会議や学年会議で、不登校気味の生徒などの情報を共有し個々の対策を立てた。</li> <li>・欠課時数が危ぶまれる生徒へは担任と協力して、早めに指導した。</li> <li>・保護者と連絡を取り合い、学年部、保健室、カウンセラーによるカウンセリングも利用して改善への働き掛けをした。</li> <li>・遅刻欠席が他校に比べて圧倒的に少ないのは本校の優れた特徴なので、これからも同じ意識を持ち維持していきたい。</li> </ul>	質問者1-6:小学校でも法人から配られた附属高校総合能力入試のパンフレットを見せていただきましたが、学部を問わなければ大学に入れるというのは魅力があると思います。今回、橋小から5名の児童が常葉中学に行くことも、パンフレットが良かったのではないかと思います。学校:それも増えた要因のひとつだと思います。最近、橋小からの児童は1～3名位、0名という年度もありました。今回5名も来ていただけたのは非常にありがたいことです。また、今回、長田西小から5名の児童が入学していただきます。
	4	読書指導	朝読書が落ち着いてできるよう、クラス内の雰囲気作り(担任)、遅刻者指導(副担)を徹底できたか	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室に様々なジャンルの文庫本を置き、多くの作品に触れられるような環境を作った。本のバリエーションも定期的に変えた。</li> <li>・教室に本を置き(受験によく出題されると言われている本の一覧を貼り出し、図書室から借りてくるなど)本を忘れた生徒に対しても対応した。</li> <li>・図書館と協力して中学・高校の1・2年生の教室に常葉生おすすめの本を配備した。配備された図書以外に、自身が読んだ本などを教室におき、落ち着いた時間が過ごせるよう努めた。自分が読んだ本を紹介して、読書をする雰囲気づくりをした。</li> <li>・おすすめの作家や書籍について折に触れ話題にし、読書が文章力向上の鍵であると訴えた。</li> <li>・朝読書の前に(貴重品・日誌・OPノート・健康観察カード)すべてのものを集め終わり、落ち着いて読書させることができた。</li> <li>・時間前に教室に行き、読書と呼びかけた。指示しなくても自分たちで読書することができた。合わせて机上也整頓するようにさせた。</li> <li>・声掛けをしつつ、生徒が状況を見て自主的に読書を始められるよう、生徒より先に読書を始め、雰囲気作りを心掛けた。</li> <li>・朝の職員打ち合わせ後、各クラスが落ち着いて読書しているか、見回りをした。</li> <li>・朝は勉強ではなく、落ち着いて読書する時間の大切さを今後も伝えていきたい。</li> <li>・落ち着いた雰囲気です学校生活が始まるのがよい。</li> <li>・生徒の様子を確認する時間としても有効だった。</li> </ul>	質問者1-6:小学校でも法人から配られた附属高校総合能力入試のパンフレットを見せていただきましたが、学部を問わなければ大学に入れるというのは魅力があると思います。今回、橋小から5名の児童が常葉中学に行くことも、パンフレットが良かったのではないかと思います。学校:それも増えた要因のひとつだと思います。最近、橋小からの児童は1～3名位、0名という年度もありました。今回5名も来ていただけたのは非常にありがたいことです。また、今回、長田西小から5名の児童が入学していただきます。

## 令和2年度 常葉大学附属常葉中学校高等学校 学校評価

〔評価基準は A:十分達成できた(80%以上) , B:ある程度達成できた(60%程度) , C:あまり達成できなかった(40%程度) , D:達成できなかった(20%以下)〕

区分	No.	評価項目	評価内容	評価	今年度の取り組み事例と次年度へ向けて	学校関係者評価委員の質問・意見
生徒指導・総務関係	1	生活指導	服装・頭髪等の違反者の生活指導や、言葉遣い、挨拶などマナー教育が徹底できたか	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>違反者への指導や言葉遣い等は、学年を問わず気づいたときにその場で指導した。マナーについては意識して行動できるようになってきたが、満足できるレベルには達していない。</li> <li>クラスや学年の生徒については日ごろから観察し、少しの変化も見逃さないようにした。</li> <li>爪の長い生徒が多いので、風紀検査の日以外にも気づいたときに声を掛けている。</li> <li>風紀の基準を把握できず、声掛けをためらうことがあった。</li> <li>服装、頭髪を指導する際の声掛けをもっと心掛けたい。</li> <li>身なりを整えることや挨拶、マナーの大切さを機会あるごとに伝えた。全体的には高校生の挨拶、教員への態度等が改善されれば良いと思う。</li> <li>靴下指導が徹底できなかった。</li> <li>靴下を下げる生徒に対して、声掛けだけでなく個別に指導した。</li> <li>元氣よく挨拶ができる、活発な学校になってほしい。</li> <li>校内での挨拶は中学生が特に頑張って実践してくれていると感じる。</li> <li>コミュニケーションを大切にしている。相手を否定しないように言葉に気をつけながら声を掛けた。</li> <li>教員の「気づき」と「認識の共有」のために、タイミングを見て、指導の指示を出した。</li> <li>細かい風紀違反はあっても、落ち着いた生活ができてきているのが本校の優れた特徴である。その点を生徒も教員も誇りとして、もっと自覚すべきではないかと思う。</li> </ul>	<p>質問者3-4: 中学の学区的な不安があったのかもしれませんが。</p> <p>質問者1-7: 私もそのようなことをきいたように思います。</p> <p>質問者3-5: 高大連携だけでなく、小中連携はないのですか。</p> <p>質問者1-8: 法人の中長期計画でも、小中連携について教育目標に掲げていく計画があります。</p> <p>学校: 例えば、小学校の行事に中学生が手伝いに行く、また、小学校の先生の仕事をらせていただくこともキャリア教育につながると思います。</p> <p>質問者4-1: 瀬名キャンパスが主だった頃は、大学祭の時など小学生が遊びに行ったりして交流をしていました。常葉中学にも小学生が遊びに来れるような場があると良いのではないのでしょうか。</p> <p>質問者1-9: 小学校は瀬名キャンパス、草薙キャンパスの学生と交流があります。どうしても瀬名、草薙が近いということもあり、少し離れている水落キャンパスとの交流が難しい点があります。</p> <p>学校: 小中で交流させていただくのであれば、こちらから出向かせていただきます。コロナが収まったら、ぜひお願いしたいと思います。</p> <p>質問者4-2: 身近に常葉中学の生徒さんがいれば、学校にも興味を持ちやすいでしょう。</p> <p>学校: やはり「人とのつながりが大切、人と人とのつながりで結びついていく」という点では、コロナで学校行事がなくなった関係で、本校でも行事を経験した生徒たちが卒業してしまい、行事の経験者が残らないということがあります。</p> <p>PTA、母の会についても同様です。今後、このようなコロナの影響が出てくるだろうと思います。経験値という点で難しい部分が出てくるように思います。</p> <p>質問者3-6: 最近、親の質が変わってきているということをききます。生徒はあまり変わらないが、結局、子どもは親とセットなので苦労があるのではないですか。</p> <p>学校: 幸いなことに、本校の保護者の方々は協力的で、いろいろな点でご理解をいただいております。要望やクレームなどほとんどない状況で大きなトラブルはありません。</p>
	2	学校行事	生徒を主体的に動かし、各行事のリーダーを育成することができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育祭、合唱祭では、あまり口を挟まず代表委員を中心に活動させた。野外活動では3年生を班長、副班長にして、下級生とチーム活動に取り組みさせた。</li> <li>合唱発表会では、放課後の練習がない中でも、よくあそまで仕上げたと感心させられた。</li> <li>自分たちで考え、行動できるようになった。主体的に行動できる場面が増えてきたように感じる。</li> <li>体育祭や弁論大会など意欲的に取り組ませた。</li> <li>行事ごとにリーダーが変わり意見をまとめることに苦労したが、それにより生徒も成長できたと感じる。</li> <li>活動が多くできず、意欲的に活動したいと考えている生徒を上手に動かせなかった。</li> <li>クラスの役割に責任を持つように、一人一役を徹底している。自己主張できる生徒がまだまだ少ない。</li> <li>生徒が主体性や団結力を伸ばせるように、行事ごとに感想を書かせた。</li> <li>保育の生徒だけでなく、美術コースの生徒も加わり、リーダーを決めて行事の壁面作成を行った。</li> <li>助言は必要最小限にし、生徒が自ら考え行動できるように努めた。</li> <li>こちらからの伝達だけでなく、生徒から発信できるように個別に声掛けをした。生徒から相談されたときには、解決策と一緒に考え、最終的に生徒が決定できるようにサポートした。</li> </ul>	
	3	教室・校内美化	清掃指導を徹底し、教室や校内の美化に努めることができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラスの清掃場所をしっかりと見回った。</li> <li>分担場所が増えたので、巡視をしながら清掃をさぼっている生徒に声掛けをした。</li> <li>清掃が十分でないところは、きれいに掃除させてから終わらせた。</li> <li>生徒の数に比べ清掃分担場所が少なく、手持無沙汰のものが出してしまう。当番制にしたらどうか。</li> <li>清掃監督の場所がどうしても教室中心になってしまうため、他の清掃分担場所に目が行き届かないのが現状である。</li> <li>生徒には自分の担当だけでなく、気づいたら自ら動くことが大切だと指導している。</li> <li>中学生は基本的に清掃によく取り組み、美化に努めていた。一部意識が低い生徒もいるが、ほとんどの生徒が自分の役割を積極的に果たした。</li> <li>コロナ対策として、トイレから出るごみ等の処理は徹底できた。アルコール消毒や換気も徹底して行った。</li> <li>コロナ対策もあり、私物の管理とゴミを出さない指導を心掛けたが、後半、消毒作業をほとんどしなくなっていた。</li> <li>校内に落ちているゴミは必ず拾って捨てている。</li> </ul>	
	4	貴重品管理	朝のSHR時に貴重品提出を徹底できたか。記録用紙に未提出者を記録したか	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>慣れてくると記入漏れの生徒が出てくる。朝のSHR時に記入したかの呼びかけをしている。</li> <li>貴重品の提出は徹底できたが、記録用紙へのチェック漏れが多く、指導不足だった。</li> <li>1年間、未提出者の記録をつけ、定期的に確認した。</li> <li>朝のSHRで必ず声掛けしているが、100%にできない現状がある。指導が難しい。</li> <li>感染対策で、一人一人袋に入れさせ列ごとにチェックし集めている。</li> <li>担当が机を回ってすべて回収した。担当が運搬、配布を行った。</li> </ul>	
	5	防災・防犯	防災や防犯の意識を向上させることができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>中2でその分野を学習した。非常持ち出し品の準備など意識を高めることができた。</li> <li>自転車事故や電車内の痴漢、不審者情報を生徒に伝え、注意を促した。</li> <li>災害に対する心構えやとるべき行動などの話をし、意識向上に努めた。</li> <li>女子としての防犯意識を高めたい。</li> <li>大地震を想定し、訓練を重ねることが必要。(登下校中、家での対応も含め)</li> <li>道徳教材で震災のことに触れたり、自ら防災グッズを購入し、その必要性を説いた。</li> </ul>	
	6	部活・生徒会	部活や生徒会を活発にし、生徒の育成ができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>水鳥体育館と連絡を取り、生徒に最もよい指導になるように心掛けた。遠方からの生徒には、体育館に行くまでに課題をやらせている。</li> <li>コロナ感染に気を付け、一人でも多く県大会に出場できるように練習を頑張った。中等部では少しずつであるが結果が出てきた。</li> <li>体育祭に向けて、生徒主体でダンスの構成を考えさせた。またコンテストに参加し動画を投稿し、良い作品を作ることができた。</li> <li>部員が少ないため他校との合同練習となるが、できるだけ参加し技術向上に努めた。</li> <li>月間予定の作成や、顧問、部員とのコミュニケーションを定期的にとり情報共有した。</li> <li>部活指導においては専門外の部分が多いが、組織づくりや運営に関してこれから検討していく。</li> <li>文化祭が中止となり、生徒のモチベーションが大きく低下し、それを取り戻すことができなかった。</li> <li>コロナの影響でいろいろな行事が中止となり、部活の取り組みは目標が見えなくて大変だった。</li> <li>コロナ禍の中で、各部活動が工夫して取り組んでいたと思う。行事と同様に部活動も、生徒にとって活力の源であることを改めて感じた。</li> <li>生徒会活動では中高大の連携を深め、一緒に活動できることがあるとよい。</li> <li>文化祭の大学との連携について、大学学生会と様々な意見交換を行った。</li> <li>前期生徒会では募金活動などの企画を行い、後期以降の活動の足掛かりを作った。後期役員は全員1年生なので、2年かけて行う企画を検討できるように、定期的に会議を開いて活動した。</li> </ul>	



## 令和2年度 常葉大学附属常葉中学校高等学校 学校評価

〔評価基準は A:十分達成できた(80%以上) , B:ある程度達成できた(60%程度) , C:あまり達成できなかった(40%程度) , D:達成できなかった(20%以下)〕

区分	No.	評価項目	評価内容	評価	今年度の取り組み事例と次年度へ向けて	学校関係者評価委員の質問・意見
進路指導	1	進路意識	進路行事や進路情報の提供等を通して、生徒の進路意識を高めることができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>outputノートは授業の反省だけでなく、問題形式で作るため好評で生徒自ら工夫を凝らして取り組んでいる。(中学)</li> <li>進路講話の実施や進路説明会、入試説明会などを通して意識を高めることができた。今年度は常葉中学生対象の入試説明会を実施した。(中学)</li> <li>現高1から総合能力入試が実施されるため高1のうちから意識を高めさせている。本校はLHRで進路に関する行事が多く生徒も興味をもって聴講していた。</li> <li>進路室にある過去問や過去の受験データなどを生徒に提供し、過去問の内容を教える(解説する)ことができた。</li> <li>現高1から附属校総合能力入試へ切り替わるため、進路指導は、いつも以上に気を配り選択ミスのないよう早めの対応と、こまめな声掛けを心掛けた。</li> <li>要所要所で進路達成に向けて具体的な話をし、生徒からの質問に正しい情報を伝えることを心がけた。授業やHRで来年の受験に対する意識を高められた。</li> <li>長期休みをうまく利用し、これからの春休みに向けて進路に対する意識の向上・面接対策を行っていきたい。</li> <li>進路行事以外にも、連携講座で大学や短大から直接発信される情報の存在が大きかった。</li> <li>3年生は生徒たちから受験情報を求めているため、必要な情報を提供できた。面接練習も進路指導も概ね生徒たちは満足しているように思う。</li> <li>2年次から受験レポートの印刷、面接ノートを作成し、できる限りの対策を行った。手帳や回収物にコメントをしながら精神面のサポートを心掛けた。</li> <li>進路雑誌は掲示するようにし、調べた情報はすぐに貼り出すようにした。オープンキャンパスや相談会などの情報も伝え、数多くの参加があった。</li> <li>こまめに面接ノートなどを確認し、進路目標と受験状況を照らし合わせて指導した。</li> <li>不合格になった生徒ともこまめに面談し、次の受験校に向けて準備できた。</li> </ul>	
	2	学力対策	授業や補習、朝学習等を通して、生徒の進路達成のための学力向上ができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>NIEウィーク、小論文指導を通じて、考える力、表現する力の基礎を養成できた。</li> <li>教科担当者との連絡を密にし、問題のある生徒には早めに対処したことで、全体的な底上げが出来た。</li> <li>自分で学習できる習慣がある生徒が少なく、実力がなかなかつかない学習方法をしているのを改善しようとする指導しつづけている。自分のやり方に固執している生徒が多く、今後も粘り強く、勉強の仕方の指導を継続したい。</li> <li>今年度は補習ができなかった分、課題で補った。週末課題に加え、「定期的な課題を与えてテストを行う」という形を続けた。毎日SHRで、英語小テストを実施している。</li> <li>勉強の方法がわからない生徒や学習習慣がない生徒には1Pノートを積極的に進め、ノートでのやり取りの中でアドバイスした。</li> <li>少し頑張れば解けるような問題を意識して作成し、基礎的な内容を定着させることと、早く解き終わる生徒のための応用プリントを用意するようにしていた。</li> <li>補習をお願いしたり、授業のない科目の補習を自主的に行った。過去問の分析を行い、小テストにも過去問のような思考問題などを多く取り入れた。</li> <li>苦手意識のある生徒へは基礎・基本の定着を図り反復練習をさせた。落ち着いて学習できる環境作りを努めた。</li> <li>定期試験の対策や実施後に自己分析できるように反省を手帳に書かせた。今年度は分析力・計画性を高めるために授業でも工夫した。</li> <li>例年通り、面接指導や小論文指導、補習には多くの先生が協力し手厚い指導ができた。</li> <li>教科担当の先生方と協力をして、スタディサプリを活用したり小テストやリスニング問題に取り組んだ。上位層・中間層の伸びが見られた。(中学)</li> </ul>	
	3	学力分析	定期試験や、模試等の結果分析をすることで、生徒にアドバイスをすることができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学生の学力推移調査の結果を分析する時間が無かった。ベネッセのハイスクールオンラインで素点のデータは入手できるが、項目ごとの得点率などのデータ分析も行えるようになるとよい。</li> <li>今年度はベネッセの学力推移調査年2回の実施により、各個人に分析結果が送られたため、GTZなどを中学で意識できたのは新鮮だった。その分析結果をさらに各自で分析させた。</li> <li>定期試験2週間前から、未来手帳に学習の記録をつけさせた。事前に目標を立てさせ、試験後振り返りができるように組み合わせた。</li> <li>試験後は手帳を活用して点数や感想を記入させ、振り返りをさせた。面談等で生徒の状況を把握し、個人にアドバイスすることもあった。</li> <li>定期テストの反省を書かせ、次のテストに向けて考えさせた。面接の際、一緒に学習方法を考え点数のとれない生徒には教科担当に個人的指導をお願いした。</li> <li>何度も結果を分析した。結果返却時には二者面談を行い、自分がどうすべきか自分の口から話させるように心掛けた。他の進学先の合格判定なども印刷して必ず渡すようにした。クラス内での順位ではなく、全国の中での偏差値を意識するよう声掛けしてきた。どの試験でも直しを提出させ、必ずコメントをして返却した。</li> <li>模試データは附属校入試では直接的な活用はできないが、附属校の対外的な偏差値と自分との客観的な比較をさせ、奮起させる材料とした。</li> <li>定期試験では生徒の苦手がはっきりわかっているが模試は分析しきれていない部分があった。解き方や順番、時間配分のコツを伝えたい。</li> </ul>	
	4	キャリア教育	連携講座(高校)またはキャリア講座(中学)の目的を理解し、生徒の取り組む意欲を向上させることができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナのため中止となったものもあり、全体への意識徹底の発信機会も減った。(中学)</li> <li>八木先生、立教大の先生、卒業生の岡田さんの協力のもとシヅクリはぜひ、中学の売りにし継続したい。(中学)</li> <li>福祉講座、伝統文化講座ともに目的が明確なため、生徒も取り組みやすかったと思う。(中学)</li> <li>今年度は伝統文化講座も終了し、来年度はキャリア講座2年目となるため、キャリア講座の内容を早めに検討していく必要がある。(中学)</li> <li>生徒たちは自分の進路に合った内容を選択していた為、意欲は常に高かった。</li> <li>大学での講義は個人的にも興味を持てる内容であり、生徒たちは真剣に話を聞いていたように思う。</li> <li>コロナの影響で高大連携講座の回数が減ったが、生徒は積極的に取り組んでいた。行事がない分だけ、こうした講座が新鮮であったのかもしれない。</li> <li>どの講座でも今後の人生につながる内容であったため、進路先に関係なく前向きに取り組むよう呼びかけを行った。</li> <li>基本的には進路先と内容が同じであったため、レポートを何枚も書くほど意欲的に取り組んでいた。</li> <li>連携講座(社会学科担当)は様々な分野で講義され、生徒たちの進路に向けてよい影響があると感じた。</li> <li>連携講座後のレポートを選抜して掲示し、生徒の意見などを共有する機会を設け、生徒たちで話し合う時間を作ってみました。</li> </ul>	
	5	資格取得	各種検定の奨励や、資格取得のための事前指導ができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎年中学では漢検や英検を一斉に実施しているが、取り組む姿勢と学力に大きな差があるため、指導が難しい。(中学)</li> <li>漢検については昨年度の反省を活かし、今年度は早くから指導を心掛けた。(中学)</li> <li>英検については英語科の先生方のお力を借りながら、朝学習や授業等での計画的な取り組みが必要だと感じた。(中学)</li> <li>受験の目的をしっかり生徒に理解させることが大切で、合否に大きく影響する。4月からの継続した指導が合格に結びつくことを実感した。(中学)</li> <li>漢字検定については一斉漢検もあり、授業等でも対策の話をしたり、プレテストなども行った。そのためか、合格率も高かったように思う。</li> <li>漢検や一斉英検に向け1Pノートに取り組ませた。とにかく量をこなすというよりは、効率よい勉強方法を考えていきたい。</li> <li>医療看護を希望している生徒には数検を受けるように勧めた。もう少し朝読書でテストを実施して、合格率を上げたかった。</li> <li>第1回の数学検定は中止になってしまったが、第2回の数学検定で25名の参加をさせることができた。過去問と作成した模範解答の配布をし、質問にも対応をした。</li> <li>一斉英検に向けてクラス一丸となって、1Pプリントを毎日やったり朝の時間を使って全員で取り組んだ。</li> <li>資格・検定等には積極的に取り組むよう声掛けを心掛けた。一斉英検では、クラス全員1日1ページ以上の学習ノートを作らせ毎日取り組ませた。</li> <li>9月ワープロ検定を実施。練習日を2週間設けた。合格者は13名(受験者16名)</li> <li>料理・菓子検定では授業中に問題を解く時間を設けたりと、受験への意欲を持たせるよう努めました。</li> <li>コロナの関係もあり、検定そのものや対策講座(英検2次対策「お助け隊」)などの実施もいつものようにはできなかったと思う。</li> </ul>	
	6	保護者との連携	生徒や保護者との面接を通して個別に生徒の進路意識や学習意欲を向上させることができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>現時点で特別支援の生徒の親御さんとは昼夜を問わず連絡を密にした。おかげで生徒が何に躓いているかをタイムリーに把握し適切な支援を続けられた。</li> <li>担任の先生方が保護者と連絡を密に取り合い、話し合った内容の報告を受け、共通理解を心掛けた。場合により、保護者面談にも立ち会ってきた。</li> <li>クラス内の進路実現のため、基本1度の面接を行った。必要がある場合は、2回以上の面接を行った家庭もある。また、教務面接が1件あり、学習についてどのような姿勢で臨まなければならないのかを話し、3学期には成績の向上が見られた。</li> <li>配慮が必要な生徒には頻りに保護者と連絡を取り、情報共有を徹底できるようにした。また、保健室やカウンセラーを通してアドバイスをもらい、接し方や指導に生かした。面談では保護者を通して生徒・家庭理解に繋がった。</li> <li>欠席の生徒の連絡や面接では保護者に助けられる場面もあったため、今後のスキルアップができるよう努力したい。</li> <li>面談の際に評定平均や日ごろの勉強時間についての話をヒアリングして、目標設定などを生徒と一緒に考えました。</li> <li>子どもたちは様々な健康課題を抱えており、複雑化多様化している。</li> <li>その実態に対して家庭介入の有無や学校との連携が課題解決のポイントとなってくることを保護者へ何らかの形で伝えられたら良いと考えます。</li> </ul>	